

2004年10月1日

原子力委員会委員長

殿

核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会

共同代表 平野良一

鹿内 博

## プルトニウム利用の中止を求める要望書

「新長期計画策定作業の結論が導かれるまで

六ヶ所再処理工場でのウラン試験入りは凍結すること」

併せて以下の要望事項と関連する質問事項にお答えいただきたい。

### 1. プルトニウム利用計画の透明性を指導して頂きたい。

電気事業者は、昨年8月5日の貴委員会決定の「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方について」をうけて、昨年12月19日付「プルサーマル計画について」を公表しているが、その後周辺状況が大きく変化したにも拘わらず依然として同計画を基本として位置づけしているように思われる。上記「基本的な考え方」によれば、「透明性の向上のための手段として実効性を有するためには、最新の状況をふまえた利用計画とすることが必要である」としている。

六ヶ所再処理工場の稼働に結びつく「ウラン試験入り」を目前にして、電気事業者・日本原燃は共に青森県内で「本格的にプルサーマルが行われる段階では需要が供給を上回ることとなる」旨の説明をしている。公表している2010年までとしているプルトニウム利用計画からは、需要が供給を上回るという事態は窺えない。そこで貴委員会として、電気事業者に透明性・実効性ある利用計画に見直すよう指導して頂きたい。

**質問事項 1-1** 貴委員会として電気事業者のプルトニウム利用計画から需要が供給を上回っていると認識されているか。

**質問事項 1-2** 我が国が現に保有しているプルトニウムの管理状況から、日本原燃が計画している2006年7月の操業開始時に六ヶ所再処理工場から分離・回収されるプルトニウム利用目的の妥当性が確認することが可能と考えるか。

### 2. 最新の我が国プルトニウム管理状況を報告して欲しい。

従来、内閣府は毎年8月末から9月上旬にかけて前年末に於けるプルトニウム保有量の公表を行ってきたが、本年は未だにその報告に接していない。多分、IAEAには報告済と思うが、速やかに公表して欲しい。

**質問事項 2-1** 海外保管中分離プルトニウムの内、仏国での回収分で年間55kgがアメリカシウム241への変化によって減少したと説明されていた(03年第28回原子力委議事録)が、同様に2001年中にも287kgの減少が公表資料から窺える。英国での回収分についても同じと思われるが、今日までのトータルとしての減少量は何kgとなっているのか。その量は委託再処理費用に換算して金額的にどのくらいと評価されるか。

**質問事項 2-2** 海外で保管されるプルトニウムのプルサーマル使用について、国内のプルトニウムに準じた措置を行うとしているが、平和利用への懸念払拭や透明性の一層の向上の観点からも、さらには減少プルトニウムによる経済的対応からも国内プルトニウムに優先したプルサーマル使用を謳うべきと思うが、如何か。

以上